香港大学に所蔵する明治期或いは明治以前の日本書について

馮　錦　榮

香港大学中文系

一

香港大学に所蔵する明治期或いは明治以前の日本書（「和刻本」或いは「写本」を含めて）の数は６００点を下らない。例えば：

1．何晏集解、朱熹集註、伊藤維禎古義、物茂卿徴、源頼寛輯『論語徴集覧』（宝暦10年［1760］観涛閣出版）、２０冊。
2．鄭玄註、金蟠訂『周礼』４２巻（大和屋伊兵衛寛延２年［1749］永懐堂出版）、８冊。
3．吉田光由（1598－1672）『新編塵劫記』（寛永20年［1643］）、８冊。（図１a, b）
4．王充『論衡』３０巻（浦衛興重校、寛延３年［1750］江戸書林出版）、一冊。
5．安藤東野（1683－1719）『東野遺稿』三巻（江都：嵩山房、寛延２年［1749］出版）、一冊。
6．李漁（1611－1680？）『肉蒲団』（『覚後禅』ともいう；情隠先生編次、倚翠楼主人訳、宝永乙酉［1705］青心閣出版）、四冊。
7．藤元丙編集『日本名家詩選』七巻（江戸：田中氏、安永４年［1775］出版）、一冊。
8．伊藤仁斎（1627－1705）『古学先生別集』（稿本、写す年不明）、Mr. J.R. MacEwan旧蔵、一冊（図２a, b）。
9．伊藤仁斎著、伊藤東涯編集『古学先生文集』（享保丁酉年［1717］玉樹堂出版）、六冊。
10．伊藤仁斎著、伊藤長胤編集『古学先生文集』二巻（享保丁酉年［1717］玉樹堂出版）、三冊。
11．荻生徂徠（1666－1728）、小泉秀之助校訂『訳文筌蹄』（附伊藤東涯［1670－1736］『用字格』四巻；東京：須原屋、明治４１年［1908］２版）、一冊。
12．伊藤東涯（1670－1736）『古今学変』三巻（浪華：群玉堂、天保１４年［1843］校正補刻）、３冊。
13．伊藤東涯『東涯漫筆』上巻（寛政１２年［1800］甘雨亭刊本）、一冊。
14．大田元貞（1765－1825）『仁説三書』（江戸多他軒、文政４年［1821］出版）、二冊。

15. 谷重遠（1663－1718）『秦山集』（東京：谷干城明治４３［1910］年出版）、五冊。
16. 佚名『占易秘訣抄』（江戸中期写本）、一冊。（図3a, b）
17. 松平定信（1759－1829）『集古十種』（東京：国書刊行会、明治４１［1908］年）、四冊。
18. 佐藤一斎（1772－1859）『言志晩録』（嘉永庚戌［1850］有乎爾斎刊本）、一冊。
19. 村田高風（1773－1843）編、井上頼国、近藤瓶城増補『増補俚言集覧』（東京：近藤圭造、明治３９［1905］年）、三冊。
20. 鹿持雅澄（1791－1858）著、山田安榮、伊藤千可良、岩橋小彌太校『万葉集古義』（東京：国書刊行会、明治４５［1912］年－大正３［1914］年）、十冊。
21. 島田翰（1879－1915）『古文旧書考』四巻（附『訪餘録』；明治３６［1903］年藻玉堂排印本）、五冊。
22. 近藤正斎（1771－1829）『近藤正斎全集』（東京：国書刊行会、明治３８［1905］年－３９［1906］年）、三冊。
23. 塙保己一（1746－1821）編『群書類従』第１－第１９輯（東京：経済雑誌社、明治３１［1898］年―３５［1902］年）、十九冊。
24. 塙保己一（1746－1821）編『續群書類従』、第９－第33輯及補遺第１―第４輯（東京：續群書類従完成会、明治３５［1902］－昭和５［1930］年）、五十二冊。
25. 国書刊行会編『續續群書類従』、第１－第１９輯（東京：国書刊行会、明治３９［1906］－４２［1909］年）、九冊。
26. 国書刊行会編『新群書類従』、第１－第１０輯（東京：国書刊行会、明治３９［1906］－４１［1908］年）、十冊。
27. 空海（774－835）『灌頂記』（東京：国書刊行会、明治３６［1903］年）、一冊。
28. 空海『弘法大師真蹟風信状』（大阪：油谷博文堂、明治４２［1909］年）、摺畳装一冊。
29. 東京帝国大学文科大学史料編纂掛編纂『大日本古文書』（東京：東京帝国大学、明治３４［1901］年－昭和１５［1940］年）、二十五冊。
30. 東京帝国大学文科大学史料編纂掛編纂『大日本古文書』（家わけ）（東京：東京帝国大学、明治３７［1904］年－昭和４０［1965］年）、七十二冊。
31. 井上哲次郎、蟹江義丸共編『日本倫理彙編』（東京：金尾文淵堂、明治４４［1911］年）、十冊。
32. 宮島誠一郎（1838－1911）『宮島誠一郎上闕書』（明治末年、明治１３［1880］年重印本により）、摺畳装一冊。
33. 早川純三郎編集『赤穂義人纂書』（東京：国書刊行会、明治４３［1910］年－４４［1911］年）、三冊。
34. 早川純三郎編集『近世文芸叢書』（東京：国書刊行会、明治４３［1910］年－４５［1912］年）、十冊。
35. 市島謙吉編集『続燕石十種』（東京：国書刊行会、明治４１［1908］年－４２［1909］年）、二冊。

36. 早川純三郎編集『新燕石十種』（東京：国書刊行会、明治４１［1908］年－４５［1912］年）、五冊。
37. 国書刊行会（代表者早川純三郎）編集『神道叢書』（東京：国書刊行会、明治４４［1911］年）、一冊。
38. 水野中央（1814－1865）編集『丹鶴叢書』（東京：国書刊行会、明治４５［1912］年－大正３［1914］年）、八冊。
39. 富山房編輯部編集、服部宇之吉等校正『漢文大系』（東京：富山房、明治４２［1909］年－大正５［1916］年）、二十二冊。
40. 小山田與清（1783－1847）『松屋筆記』一二〇巻（東京：国書刊行会、明治４１［1908］年）、三冊。
41. 新井白石（1657－1725）著、今泉定介、市島謙吉編校『新井白石全集』（東京：国書刊行会、明治３８［1905］年－４０［1907］年）、六冊。
42. 伴信友（1773－1846）著、市島謙吉編集『伴信友全集』（東京：国書刊行会、明治４０［1907］年－４２［1909］年）、五冊。
43. 九条兼實（1149－1207）著、国書刊行会（代表者今泉定介）編集『玉葉』六六巻（東京：国書刊行会、明治３９［1906］年－４０［1907］年）、三冊。
44. 国書刊行会編集『平家物語：長門本』（東京：国書刊行会、明治３９［1906］年）、一冊。
45. （朝鮮）鄭麟趾（1396－1478）等著、市島謙吉編集『高麗史』（東京：国書刊行会、明治４１［1908］年－４２［1909］年）、三冊。
46. 菅政友（1824－1897）『菅政友全集』（東京：国書刊行会、明治４０［1907］年）、一冊。
47. 松浦静山（1760－1841）『甲子夜話』（東京：国書刊行会、明治４３［1910］年）、三冊。
48. 松浦静山『甲子夜話続編』（東京：国書刊行会、明治４４［1911］年）、三冊。
49. 屋代弘賢（1758－1841）『古今要覧稿』五百八十四巻（東京：国書刊行会、明治３８［1905］年－４０［1907］年）、六冊。
50. 藤原定家（1162－1241）著、帝国大学史料編纂掛校正『明月記』（東京：国書刊行会、明治４４［1911］年－４５［1912］年）、三冊。
51. 国書刊行会編集『史籍雑纂』（東京：国書刊行会、明治４４［1911］年－４５［1912］年）、五冊。
52. 林輝等編集『通航一覧』三二巻、付録二三巻（東京：国書刊行会、明治４５［1912］年－大正２［1913］年）、八冊。
53. 黒川真頼（1828－1906）『黒川真頼全集』（東京：国書刊行会、明治４３［1910］年－４４［1911］年）、六冊。

二

香港大学図書館所蔵の日本書は、その由来について、主に三つのルートが考えられる。其の一、香港大学を創立した時の学長（the Founding Vice-Chancellor）Sir Charles Norton Edgecumbe Eliot（1864－1931）の旧蔵書である；其の二、香港大学東方文化研究院（Institute of Oriental Studies, 現在のアジア研究センターCentre of Asian Studies）の兼職研究員のBraga José Maria女史（1897－1988）からの寄贈書である；其の三、戦時中日本の駐香港総督部の旧蔵書である。

1912年から1918年まで、学者であり、外交官の経歴も持つCharles Norton Edgecumbe Eliot氏は香港大学の初代学長を務めた。氏はフィンランド語（Finnish）（英語で始めての『フィンランド語文法』を著した）、サンスクリット語（Sanskrit）、パリ語（Pali）、ヘブライ語（Hebrew）、シリア語（Syriac）、トルコ語（Turkish）［著書に*Turkey in Europe*（London: Arnold, 1908）、『トルコ帝国』（東京：大日本文明協会、1911年）がある］、ペルシア語（Persian）、中国語と日本語に通暁し、1918年から1920年まで、イギリス駐シベリアの高等弁務官（High Commissioner for Siberia）を務め、その後1920年から1926年までイギリス駐日本大使（British Ambassador to Japan）を務めた。1924年、氏は香港大学から栄誉法学博士号（Hon. LLD）を授与された。1926年、彼は日本帝国学士院（Japanese Imperial Academy）において、初めての外国籍の院士（Foreign Member）になった。世に知られている著書*Letters From the Far East*（London: E. Arnold, 1907）[1]と*Japanese Buddhism*（London:E. Arnold, 1935）以外、氏はまたnudibrachiata molluscaに関する論文を著し、『大英百科全書』（第11版）のなかのアジア歴史、エストニア（Estonia）、ハンガリー語（Hungarian language）、タタール人（the Tartars）等各分野にわたる言葉の編撰に従事した[2]。1914年１月から1920年代中期までCharles Norton Edgecumbe Eliotの日本語蔵書、ヨーロッパ言語の蔵書の一部は香港大学の図書館に寄贈され、その他のヨーロッパ言語の蔵書は当時の東京帝国大学図書館長Mr. Anesaki氏が購入し、所蔵したという[3]。

Braga José Maria女史は十五世紀から十九世紀までのポルトガルと中国、日本及び朝鮮の文化交流史、とりわけ航海史研究の専門家であった。著書に*Early Medical Practice in Macao*（Macao: Inspecção dos serviços economicos, 1935）、*The Beginnings of Printing at Macao*（Lisboa, 1963）と*Jesuítas na Ásia*（Macau, 1998）等がある。1961年11月24日、Braga José Maria女史はポルトガル極東航海史に関する書籍約５０点を香港大学に寄贈した。これらの書籍の内に、Armando Cortesão［1891-?］and A. Teixeira da Mota ed.の*Portugaliae Monumenta Cartographica*［Lisboa: Imprensa Nacional, 1960］、A. Fontoura da Costa［1869-1940］and C.R.Boxer［1904-2000］の*Cartografia e cartógrafos portugueses dos séculos XV e XVI*［Lisboa: Imprensa Nacional, 1935］と明治以降の洋装本が含まれている[4]。

三

1940年までに、香港地区には約十ヶ所の図書館があった：公衆図書館、香港大学付属図書館、香港大学馮平山図書館（1932年般咸道９４号に設立され、開館時に中文図書約３１１６３冊を所蔵していた）、華商総会図書館、学海書楼、青年会図書館、華僑図書館、業餘聯誼社図書館、記者協会図書館（戦時中、蔵書移入などの業務が日本人に管理された東亜研究所である［香港中区必打街１８番］）など[5]。1941年12月25日香港は日本軍に占領された。12月28日香港大学馮平山図書館は「大日本軍民政部」（部員には竹藤峰治などがいる）に接収され、「大日本陸軍軍蒐集第四班」（班員には須山卓、前島信次、大滝栄一などがいる）に渡され、管理された[6]。当時馮平山図書館所蔵の図書（中、日文の蔵書及び寄贈書）は全部で約二十四万余冊ある。1942年から1945年終戦までの間に、日本書は大量に増え、1943年１月７日、元香港大学馮平山図書館館長の陳君葆（1898－1982）は「香港総督部文教課従軍調査班」（文教課課長は木村氏、従軍調査班長は堀内氏）の命令を受けたようで、香港大学鄧志昂中文学院（現在の香港大学アジア研究センター鄧志昂楼）の建物三階Ｊ.フィン神父［Father Daniel J. Finn, 1886－1963］の事務室を「抗日書籍存貯所」にし、程志宏、呉仲輿等と関係書籍千冊余りを整理した。未刊の『抗日書籍目録』稿本を編集した（後に『香港図書館図書目録：中文抗日書籍雑誌期刊目録続編』と名を改めた）[7]。（図４a, b）1943年10月、元台北帝国大学文政学部西洋文学講座の教授島田謹二が香港に来、香港大学馮平山図書館によく本を借りに来ていた[8]。1944年１月23日、陳君葆は「答堀内寄書至」の詩を作った：

帰去蓬莱水清浅。君家何処食無魚。放藝青鳥西飛至。問訊還憑絵葉書。
蕭然我亦宦情聞。梅鵲帰来定耐寒。不識柳橋橋上客。花時肯放酒杯寒？[9]

1944年２月16日、香港総督部文教課長木村氏は陳君葆を、元台北帝国大学文政学部東洋文学講座の教授、台湾総督府在外研究員、京都帝国大学文学部の嘱託講師神田喜一郎に紹介した。この時から、神田氏と島田謹二の二人は香港大学付属図書館と馮平山図書館の中、日文とヨーロッパ言語の図書整理の具体的な作業に携わった[10]。３月４日、陳君葆は神田と島田両先生を歓迎する宴会（場所は国民酒家）の席上で、「春日島上小集奉和［樊］震初先生兼呈神田島田教授四首」の詩を作った：

小集示教随劫盡。客愁還與昔人同。絶憐七百年来事。回首山河一夢中！
酒辺歳月改鬚鬢。春至猶難識柳楡。巳分餘生無久別。何妨浮白酔須臾。
浮海人来有盛名。千秋事業獨関情。如何文化交流日。鼙鼓猶聞戦伐聲。
一夜東風怯溷塵。月明徴遍百花神。紅芳縦借春陰護。連理時而可養仁。[11]

1944年９月、日本駐「香港総督府文教課」は馮平山図書館の管理事務を神田喜一郎に引き継がせようとした[12]。同月２５日、香港占領地総督磯谷廉介は第六十三号の公示を発布し、

次のことを発表した。「香港占領地総督部立図書館」（略称：香港図書館、住所は香港地区蔵前区西大正通９４号馮平山図書館の前の住所である）を設立し、神田喜一郎を館長にし、その元に司政を三人設置する[13]。神田氏もかつてその著作、たとえば「元大徳九路本十七史考」等の抜刷を香港図書館に贈呈した（図５）。

1944年12月５日、日本駐「香港総督府」は香港島中区花園道梅夫人公益会の元の住所で分館を設立した。「香港市民図書館」である。「香港市民図書館」は島田謹二を館長にし、開館当時は中国語と日本語の図書はおよそ６０６２１冊所蔵していた[14]。そのうち馮平山図書館の一部の中、日文蔵書はこの分館に移した。1945年終戦後、馮平山図書館は元の名前に戻し、「香港市民図書館」及び日本駐香港総督部の蔵書は基本的に香港大学に寄贈したという。ただし当時は受け取り目録は編成しなかった。

注

1. The book consists of contributions written for the Westminister gazette during a brief visit to China and Japan in the summer and autumn of 1906.
2. Bernard Mellor (1917-), *Lugard in Hong Kong:Empires,Education and A Governor At Work 1907-1912* (Hong Kong: Hong Kong University Press,1992) , pp.159-160.
3. *Accessions: Library, University of Hong Kong* (Unpublishd Archive), Vol. 1-6 (1913-1925), Edmund Blunden (1896-1974), "Sir Charles Eliot", in Brian Harrison,*University of Hong Kong:The First 50 Years,1911-1961* (Hong Kong: Hong Kong University Press, 1962), pp.38-44.
4. Braga José Maria, *Address delivered at the Hong Kong University on 24th Nov*,1961, pp.1-7.
5. 『華僑日報』1944年9月25日、香港占領地総督部報道部監修、東洋経済新報社編『軍政下の香港：――新生した大東亜の中核――』（香港東洋経済社、昭和１９［1944］年２月）、275－278頁、陳君葆著、謝栄滾編集『陳君葆日記』（香港商務印書館、1999年）、"1943年１月25日日記"（下、589頁）
6. 劉国蓁「服務馮平山図書館的回憶」（五）、『華僑日報』1957年12月19日、三枚目、四頁。
7. 『陳君葆日記』"1943年１月７日日記"（下、587－588頁）。
8. 『陳君葆日記』"1943年10月19日日記"（下、634頁）。
9. 陳君葆著、謝栄滾編集『水雲楼詩草』（広州：広東旅遊出版社、1994年）、72頁。
10. 『陳君葆日記』"1944年２月３日日記"（下、658頁）。
11. 『陳君葆日記』"1944年３月５日日記"（下、663頁）；『水雲楼詩草』、74頁。
12. 『陳君葆日記』"1944年９月21日日記"（下、716頁）。
13. 1944年9月26日の『華僑日報』。この件は『神田喜一郎全集』（京都：株式会社同朋舎、1979年）の神田喜一郎<略歴・著作目録>（421－448頁）には載らなかった。
14. 『陳君葆日記』"1944年11月18日日記"（下、732頁）。『華僑日報』1944年12月２日、6日。

關於香港大學所藏明治或明治以前的日本書

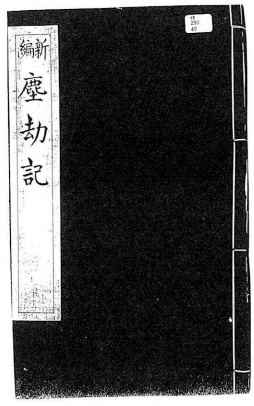
馮 錦 榮

香港大學中文系

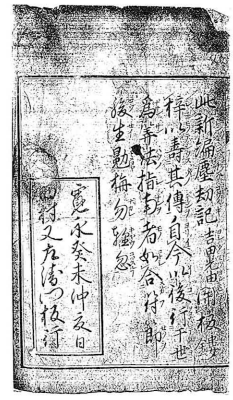
一

香港大學所藏明治或明治以前的日本書(包括「和刻本」或「寫本」)約不少於 600 點。如：

1. 何晏集解、朱熹集註、伊藤維楨古義、物茂卿徵、源賴寬輯：『論語徵集覽』(寶曆十[1760]年據觀濤閣本出版)，20 冊。
2. 鄭玄註、金蟠訂：『周禮』 42 卷 (大和屋伊兵衛寬延二[1749]年據永懷堂本出版)，8 冊。
3. 吉田光由(1598-1672)：『新編塵劫記』(寬永二十[1643]年)，8 冊。(圖 1a,b)



(圖 1a)

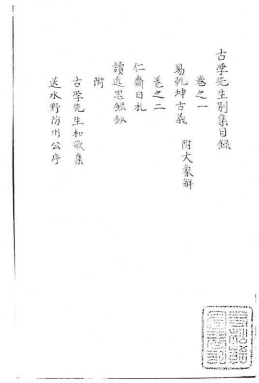


(圖 1b)

4. 王充：『論衡』 30 卷 (浦衛興重校、寬延 3 [1750]年江戶書林出版)，王秉恩手校本，8 冊。
5. 安藤東野(1683-1719)：『東野遺稿』3 卷(江都:嵩山房，寬延 2[1749]年出版)，1 冊。
6. 李漁(1611-1680?)：『肉蒲團』(又名: 『覺後禪』；情隱先生編次、倚翠樓主人譯，寶永乙酉[1705]青心閣出版)，4 冊。
7. 藤元昺編輯：『日本名家詩選』7 卷(江戶:田中氏，安永 4[1775]年出版)，1 冊。
8. 伊藤仁齋(1627-1705)：『古學先生別集』(稿本，抄寫年代不明)，Mr. J.R. MacEwan 舊藏，

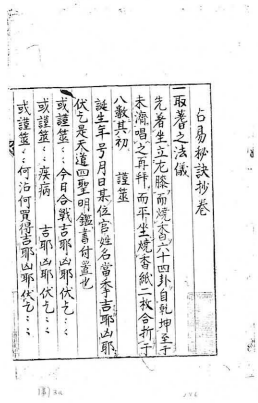
1 冊。(圖 2a, b)

(圖 2a)

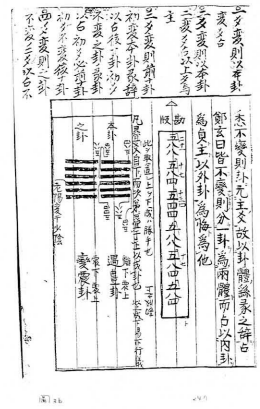


(圖 2b)

9. 伊藤仁齋著，伊藤東涯編輯：『古學先生文集』(享保丁酉[1717]玉樹堂出版)，6 冊。
10. 伊藤仁齋著，伊藤長胤編輯：『古學先生文集』2 卷 (享保丁酉[1717]玉樹堂出版)，3 冊。
11. 荻生徂徠(1666-1728)、小泉秀之助校訂：『譯文筌蹄』(附伊藤東涯[1670-1736] 『用字格』4 卷；東京：須原屋，明治 41[1908]年 2 版)，1 冊。
12. 伊藤東涯(1670-1736)：『古今學變』3 卷(浪華：群玉堂，天保 14[1843]年校正補刻)，3 冊。
13. 伊藤東涯：『東涯漫筆』上卷(寛政 12[1800]年甘雨亭刊本)，1 冊。
14. 大田元貞(1765-1825)：『仁說三書』(江戶多佗軒文政 4[1821]年出版)，2 冊。
15. 谷重遠(1663-1718)：『秦山集』(東京:谷干城明治 43[1910]年出版)，5 冊。
16. 佚名：『占易秘訣抄』(江戶中期寫本)，1 冊。(圖 3a,b)



(圖 3a)



(圖 3b)

17. 松平定信(1759-1829)：『集古十種』(東京:國書刊行會，明治 41[1908]年)，4 冊。
18. 佐藤一齋(1772-1859)：『言志晚錄』(嘉永庚戌[1850]有乎爾齋刊本)，1 冊。
19. 村田高風(1773-1843)編，井上賴國、近藤瓶城增補：『增補俚言集覽』(東京：近藤圭造，

明治 39 [1905]年)，3 冊。

20. 鹿持雅澄(1791-1858)著，山田安榮, 伊藤千可良, 岩橋小彌太校：『萬葉集古義』(東京：國書刊行會，明治 45[1912]年-大正 3[1914]年)，10 冊。
21. 島田翰(1879-1915)：『古文舊書考』 4 卷 (附『訪餘錄』；明治 36[1903]年藻玉堂排印本)，5 冊。
22. 近藤正齋(1771-1829)：『近藤正齋全集』(東京：國書刊行會，明治 38[1905]年-39[1906]年)，3 冊。
23. 塙保己一(1746-1821)編：『群書類從』，第 1-第 19 輯(東京：經濟雜誌社，明治 31[1898]年-35[1902]年)，19 冊。
24. 塙保己一編：『續群書類從』，第 9-第 33 輯及補遺第 1-第 4 輯(東京：續群書類從完成會，明治 35[1902]年-昭和 5[1930]年)，52 冊。
25. 國書刊行會編：『續續群書類從』，第 1-第 19 輯 (東京：國書刊行會，明治 39[1906]年-42[1909]年)，9 冊。
26. 國書刊行會編：『新群書類從』，第 1-第 10 輯 (東京：國書刊行會，明治 39[1906]年-41[1908]年)，10 冊。
27. 空海(774-835)：『灌頂記』(東京：國書刊行會，明治 36[1903]年)，1 冊。
28. 空海：『弘法大師真蹟風信狀』(大阪：油谷博文堂，明治 42[1909]年)，摺疊裝 1 冊。
29. 東京帝國大學文科大學史料編纂掛編纂：『大日本古文書』(東京：東京帝國大學，明治 34[1901]年-昭和 15[1940]年)，25 冊。
30. 東京帝國大學文科大學史料編纂掛編纂：『大日本古文書』(家わけ)[東京:東京帝國大學，明治 37[1904]年-昭和 40[1965]年)，72 冊。
31. 井上哲次郎、蟹江義丸共編：『日本倫理彙編』(東京 ： 金尾文淵堂，明治 44[1911] 年)，10 冊。
32. 宮島誠一郎(1838-1911)：『宮島誠一郎上闕書』(明治末年據明治 13[1880]年重印本)，摺疊裝 1 冊。
33. 早川純三郎編：『赤穗義人纂書』(東京：國書刊行會，明治 43[1910]年-44[1911]年)，3 冊。
34. 早川純三郎編：『近世文藝叢書』(東京：國書刊行會，明治 43[1919]年-45[1912]年)，10 冊。
35. 市島謙吉編：『續燕石十種』(東京：國書刊行會, 明治 41[1908]年-42 [1909]年，2 冊。
36. 早川純三郎編：『新燕石十種』(東京：國書刊行會，明治 41[1908]年-45 [1912]年)，5 冊。
37. 國書刊行會(代表者早川純三郎)編：『神道叢說』(東京：國書刊行會，明治 44[1911]年)，1 冊。
38. 水野中央(1814-1865)編：『丹鶴叢書』(東京：國書刊行會，明治 45[1912]年-大正 3 [1914]

年)，8 冊。

39. 富山房編輯部編輯、服部宇之吉等校訂：『漢文大系』(東京：富山房，明治 42[1909]-大正 5[1916])，22 冊。
40. 小山田與清(1783-1847)：『松屋筆記』120 卷 (東京：國書刊行會，明治 41 [1908]年)，3 冊。
41. 新井白石(1657-1725)著，今泉定介、市島謙吉編校：『新井白石全集』(東京：國書刊行會，明治 38[1905]年-40[1907]年)，6 冊。
42. 伴信友(1773-1846)著，市島謙吉編輯：『伴信友全集』(東京：國書刊行會，明治 40[1907]年-42 [1909]年)，5 冊。
43. 九條兼實(1149-1207)著，國書刊行會(代表者今泉定介)編：『玉葉』66 卷(東京：國書刊行會，明治 39[1906] 年-40 [1907] 年)，3 冊。
44. 國書刊行會編輯：『平家物語 ：長門本』(東京：國書刊行會, 明治 39 [1906]年)，1 冊。
45. (朝鮮)鄭麟趾(1396-1478)等撰，市島謙吉編輯：『高麗史』(東京：國書刊行會,明治 41[1908]年-42[1909]年)，3 冊。
46. 菅政友(1824-1897)：『菅政友全集』(東京：國書刊行會，明治 40[1907]年)，1 冊。
47. 松浦靜山(1760-1841)：『甲子夜話』(東京：國書刊行會，明治 43[1910]年)，3 冊。
48. 松浦靜山：『甲子夜話續編』(東京：國書刊行會，明治 44 [1911]年)，3 冊。
49. 屋代弘賢(1758-1841)：『古今要覽稿』584 卷(東京：國書刊行會，明治 38[1905]年-40[1907]年)，6 冊。
50. 藤原定家(1162-1241)著，帝國大學史料編纂掛校：『明月記』(東京：國書刊行會，明治 44[1911]年-45[1912]年)，3 冊。
51. 國書刊行會編輯：『史籍雜纂』(東京：國書刊行會, 明治 44[1911] 年-45[1912]年)，5 冊。
52. 林輝等編：『通航一覽』32 卷， 附錄 23 卷(東京：國書刊行會，明治 45[1912]年-大正 2[1913]年)，8 冊。
53. 黑川真賴(1829-1906)：『黑川真賴全集』(東京：國書刊行會，明治 43[1910]年-44[1911]年)，6 冊。

二

關於香港大學圖書館所藏日本書的來源，主要有三：一爲香港大學創校校長 (the Founding Vice-Chancellor)Sir Charles Norton Edgcumbe Eliot (1864-1931)的舊藏書；二爲香港大學東方文化研究院(Institute of Oriental Studies；現改稱爲亞洲研究中心 Centre of Asian Studies)兼職研究員 Braga José Maria 女士(1897-1988)的寄贈書；三爲戰時日本駐香港總督部舊藏書。

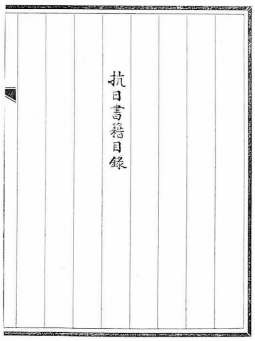
1912 年至 1918 年，Charles Norton Edgcumbe Eliot 以學者、資深外交官的身份擔任香港大學創校校長，他通曉芬蘭語(Finnish)[以英語撰寫首部《芬蘭語文法》]、梵文(Sanskrit)、巴利文(Pali)、希伯來文(Hebrew)、敘利亞文(Syriac)、土耳其文(Turkish)[撰有 *Turkey in Europe* (London: Arnold, 1908)、《トルコ帝國》(東京：大日本文明協會，1911 年)]、波斯文(Persian)、中文和日文。1918 年至 1920 年，他出任英國駐西伯利亞高級專員(High Commissioner for Siberia)，繼而從 1920 年至 1926 年出掌英國駐日本大使(British Ambassador to Japan)。1924 年，他榮獲香港大學頒授榮譽法學博士學位(Hon. LLD)。1926 年，他更成爲首位日本帝國學士院(Japanese Imperial Academy)的外籍院士(Foreign Member)。除了爲世人熟知的 *Letter from the Far East* (London: E. Arnold, 1907) [1] 和 *Japanese Buddhism* (London: E. Arnold, 1935)以外，Charles Norton Edgcumbe Eliot 復撰有“有關裸鰓亞目軟體動物”(nudibrachiata mollusca) 的論文和《大英百科全書》(第 11 版)中有關亞洲歷史、愛莎尼亞(Estonia)、匈牙利語文(Hungarian language)、韃靼人(the Tartars)等不同領域的詞條。[2] 約於 1914 年 1 月開始至 1920 年中期爲止，Charles Norton Edgcumbe Eliot 的部分日文和西文藏書已寄贈香港大學圖書館；其餘的西文藏書似由當時的東京帝國大學圖書館長 Mr. Anesaki 購入典藏。[3]

Braga José Maria 女士是研究十五至十九世紀葡萄牙與中國、日本以至朝鮮的文化交流史，持別是航海史方面的專家，著有 *Early Medical Practice in Macao* (Macao: Inspecção dos serviços economicos,1935)、*The Beginnings of Printing at Macao* (Lisboa, 1963) 和 *Jesuítas na Ásia* (Macau, 1998)等書。1961 年 11 月 24 日，她贈送了一批葡萄牙遠東航海史的書籍(當中包括 Armando Cortesão [1891-?] and A. Teixeira da Mota ed. *Portugaliae Monumenta Cartographica* [Lisboa: Imprensa Nacional, 1960]、A. Fontoura da Costa [1869-1940] and C. R. Boxer [1904-2000], *Cartografia e cartógrafos portugueses dos séculos XV e XVI* [Lisboa: Imprensa Nacional, 1935]和一些明治以後的洋裝本)予香港大學，約有 50 點。[4]

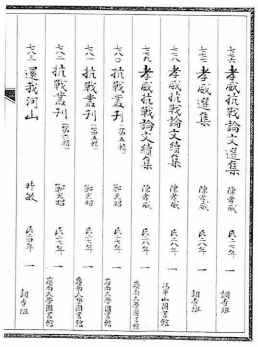
三

直至 1940 年爲止，香港地區約有十間圖書館：公眾圖書館、香港大學附屬圖書館、香港大學馮平山圖書館(1932 年建館於般咸道 94 號，開館時庋藏中文圖書凡 31163 冊)、華商總會圖書館、學海書樓、青年會圖書館、華僑圖書館、業餘聯誼社圖書館、記者協會圖書館(戰時，其藏書移入由日本人主理之東亞研究所[地址爲香港中區必打街 18 番]等。[5] 1941 年 12 月 25 日香港爲日本軍佔領而淪陷。12 月 28 日，香港大學馮平山圖書館由“大日本軍民政部”(部員包括竹藤峰治等人接收，交由“大日本陸軍軍蒐集第四班”(班員包括須山卓、前島信次、

大瀧榮一等人)管理。[6] 當時馮平山圖書館庋藏圖書(包括中、日文藏書及寄存藏書)約共 24 萬餘冊。約從 1942 年至 1945 年終戰爲止，日本書大量增加。1943 年 1 月 7 日，原香港大學馮平山圖書館長陳君葆(1898-1982)似受“香港總督部文教課從軍調查班”(文教課課長爲木村氏，從軍調查班長爲堀內氏)之命在香港大學鄧志昂中文學院大樓(現改名爲香港大學亞洲研究中心鄧志昂樓)三樓舊芬神甫(Father Daniel J. Finn, 1886- 1936)的辦公室闢作“抗日書籍存貯所”，與程志宏、吳仲輿等一起整理有關書籍千餘冊，編有未刊《抗日書籍目錄》稿本(後改題《香港圖書館圖書目錄:中文抗日書籍雜誌期刊目錄續編》)。[7] (圖 4a,b)



(圖 4a)



(圖 4b)

1943 年 10 月，原臺北帝國大學文政學部西洋文學講座教授島田謹二來港，並常到香港大學馮平山圖書館借書。[8] 1944 年 1 月 23 日，陳君葆撰有〈答堀內寄書至〉一詩：

歸去蓬萊水清淺，君家何處食無魚，放藝青鳥西飛至，問訊還憑繪葉書。
蕭然我亦宦情闌，梅鵲歸來定耐寒，不識柳橋橋上客，花時肯放酒杯寒？[9]

1944 年 2 月 16 日，香港總督部文教課長木村氏引介陳君葆認識原臺北帝國大學文政學部東洋文學講座教授、臺灣總督府在外研究員、京都帝國大學文學部囑託講師神田喜一郎。從這時起，神田氏和島田謹二兩人具體參與整理香港大學附屬圖書館和馮平山圖書館的中、日文和西文圖書。[10] 3 月 4 日，陳君葆在歡迎神田和島田兩位教授的歡迎酒宴(地點爲國民酒家)上，賦詩〈春日島上小集奉和[樊]震初先生兼呈神田島田教授四首〉：

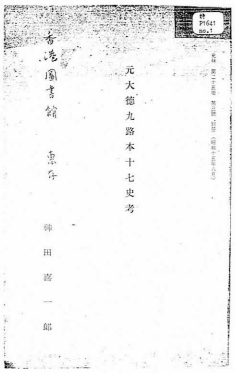
小集示教隨劫盡，客愁還與昔人同；絕憐七百年來事，回首山河一夢中！

酒邊歲月改鬚鬢，春至猶難識柳榆；已分餘生無久別，何妨浮白醉須臾。

浮海人來有盛名，千秋事業獨關情；如何文化交流日，鼙鼓猶聞戰伐聲？

一夜東風怯溷塵，月明徵遍百花神，紅芳縱借春陰護，連理時而可養仁。[11]

1944 年 9 月，日本駐“香港總督部文教課”準備把管理馮平山圖書館的事務移交予神田喜一郎。[12]同月 25 日，香港占領地總督磯谷廉介頒布公示第六三號，設立“香港占領地總督部立圖書館”(簡稱“香港圖書館”，地址爲香港地區藏前區西大正通 94 號馮平山圖書館舊址)，以神田喜一郎爲館長，下設司政三人。[13] 神田氏也曾把其著作如〈元大德九路本十七史考〉抽印本送贈香港圖書館。(圖 5)



(圖 5)

1944 年 12 月 5 日，日本駐香港總督部又在香港島中區花園道梅夫人公益會舊址設立分館，是爲“香港市民圖書館”，以島田謹二爲館長，開館時庋藏中、日文圖書凡 60621 冊。[14] 其間馮平山圖書館部分中、日文藏書移藏於分館。1945 年終戰後，馮平山圖書館恢復原名，而“香港市民圖書館”及日本駐香港總督部藏書基本上送予香港大學，惟當時沒有編製接收目錄。

1. The book consists of contributions written for the Westminster gazette during a brief visit to China and Japan in the summer and autumn of 1906.
2. Bernard Mellor (1917-), *Lugard in Hong Kong : Empires, Education and A Governor At Work 1907-1912* (Hong Kong : Hong Kong University Press, 1992), pp.159-160.
3. *Accessions: Library, University of Hong Kong* (Unpublished Archive), Vol.1-6 (1913-1925); Edmund Blunden (1896-1974),"Sir Charles Eliot", in Brian Harrison, *University of Hong Kong : The First 50 Years, 1911-1961*(Hong Kong : Hong Kong University Press, 1962), pp.38-44.
4. Braga José Maria, *Address delivered at the Hong Kong University on 24th Nov.*, 1961, pp.1-7.
5.《華僑日報》1944 年 9 月 25 日；香港占領地總督部報道部監修．東洋經濟新報社編：《軍政下の香港：一一新生した大東亞の中核一一》(香港：香港東洋經濟社，昭和 19 [1944]年 2 月)，275-278 頁；陳君葆著、謝榮滾主編：《陳君葆日記》(香港：商務印書館，1999 年)，“1943 年 1 月 25 日日記”(下冊，589 頁)。
6. 劉國蓁：〈服務馮平山圖書館的回憶〉(五)，《華僑日報》1957 年 12 月 19 日，第 3 張，第 4 頁。
7.《陳君葆日記》“1943 年 1 月 7 日日記”(下冊，587-588 頁)。
8.《陳君葆日記》“1943 年 10 月 19 日日記”(下冊，634 頁)。
9. 陳君葆著、謝榮滾編：《水雲樓詩草》(廣州：廣東旅游出版社，1994 年)，72 頁。
10.《陳君葆日記》“1944 年 2 月 3 日日記”(下冊，658 頁)。
11.《陳君葆日記》“1944 年 3 月 5 日日記”(下冊，663 頁)；《水雲樓詩草》，74 頁。
12.《陳君葆日記》“1944 年 9 月 21 日日記”(下冊， 716 頁)。

13.《華僑日報》1944 年 9 月 26 日。按，神田喜一郎〈略歷・著作目錄〉,《神田喜一郎全集》(京都：株式會社同朋舍，1979 年)(421-448 頁)失載此事。
14.《陳君葆日記》“1944 年 11 月 18 日日記”(下冊， 732 頁)。《華僑日報》1944 年 12 月 2 日、6 日。